

道博協ニュース 第 129 号 (2021 年 10 月 20 日発行)

第 59 回北海道博物館大会を開催しました

2021 (令和 3) 年 7 月 15 日 (木) ~16 日 (金)、第 59 回北海道博物館大会を、白老町コミュニティセンター (白老町本町) で開催しました。

大会にあたっては、開催地担当ブロックである日胆地区博物館等連絡協議会の各館園、及び白老町や白老町教育委員会の職員の皆様に、多大なご協力をいただきました。ありがとうございました。

第 60 回となるはずの今大会は、昨年度の大会 (士別市を予定) が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となったので、第 59 回として実施しました。

緊急事態措置やまん延防止等重点措置の発令で、適用地域との往来自粛や施設の臨時休館などが 5 月から続いています。事前の打ち合わせ日程一つとっても見通しを立てにくい状況でしたが、万全の対策を講じて実地開催することを前提に、準備を進めました。まん延防止措置や緊急事態措置の適用期間のちょうど狭間に開催日が位置していたことも幸いし、無事開会することができました。

終了後 2 週間経過後も特段体調に異変があったという連絡のなかったことに、まずは安堵しています。ご参加の皆様には消毒や検温や黙食などに快く協力いただきました。あらためて感謝申し上げます。

第 1 日目は、午前中に総会を、午後から表彰式・特別報告・研究大会を実施。会員以外も含めて、計 102 名のご参加をいただきました。

表彰式には、2021 年度表彰の「円山動物園の森ボランティア」のほか、2020 年度表彰 2 団体のうち「遊学館ボランティア」が出席し、会長より賞状と記念品を授与しました。

特別報告では、半田昌之氏 (公益財団法人日本博物館協会専務理事) をお迎えし、令和 3 年度の日本博物館協会の事業についてご報告いただきました。また、藪中剛司氏 (国立アイヌ民族博物館研究学芸部長) より、今年度から発足した「アイヌ文化で繋がる博物館等ネットワーク事業」についても報告がありました。

今大会のテーマは「博物館とアイヌ文化—多文化共生の新展開」。研究大会では、まずコーディネーターの武田正哉氏 (苫小牧市美術博物館館長) による趣旨説明の後、村木美幸氏 (公益財団法人アイヌ民族文化財団 民族共生象徴空間運営本部副部長) ・佐々木史郎氏 (公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館館長) の 2 名を迎えて、民族共生象徴空間「ウポポイ」、や国立アイヌ民族



第59回北海道博物館大会

博物館における地域連携について基調講演を行っていただきました。

続いて、浅野敏昭氏 (よいち水産博物館館長) ・関根真紀氏 (平取町二風谷民芸組合) ・北原モコトウナン氏 (北海道大学 アイヌ・先住民研究センター准教授) の 3 者による、アイヌ文化へのさまざまな取組みや現状や展望などについての個別報告。さらにその後、総合討論を実施し、会場からの質問にもお答えいただきました。

閉会式では、士別市が改めて次回 60 回の開催予定地となったことから、道北地区博物館等連絡協議会の大留義幸氏 (士別市立博物館館長) よりご挨拶。また開催にあたり日胆地区博物館等連絡協議会をとりまとめ、縦横無尽にご活躍いただいた武永真氏 (仙台藩白老元陣屋資料館館長) による閉会の辞で、第 1 日目が終了しました。

第 2 日目はエクスカージョン。A コース「白老の自然と歴史を散策する」(案内人: 武永真氏) と、B コース「ウポポイにどっぷり漬かる」(案内人: 藪中剛司氏・宮地鼓氏) に分かれ、計 47 名 (A : 25 名、B : 22 名) が参加。

心配されていた雨も降らず、やや蒸し暑いながら爽やかな白老での夏の半日を過ごすことができました。

来年度は士別市での大会を予定しています。会員の皆様が無事再会し、道内の各館園それぞれの知見を交換するよい機会となることを期しています。

(事務局 甲地利恵)

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

ポケモンから古生物学を学ぶ
特別展「ポケモン化石博物館」

三笠市立博物館で、令和3年7月4日から9月20日まで（緊急事態宣言発令のため、8月27日～9月12日は三笠市民限定）、特別展「ポケモン化石博物館」を開催しました。この展示会は、三笠市立博物館が企画、国立科学博物館と共催し、株式会社ポケモンが企画協力したものです。

ゲームシリーズ『ポケットモンスター』に登場する「ポケモン」には、カセキから復元することで仲間にできる種類が知られています。これらには、実在する古生物によく似た姿のものが知られ、中には近年の古生物学研究成果を彷彿とさせるような姿、ゲーム中での説明があるものも存在します。今回の展示会は、これらのポケモンと実在した古生物の観察と比較を通して、最新の古生物学を学ぶ、ということを目的としました。

展示では、ポケモンと古生物それぞれのイラストと解説が書かれたパネルを並べて掲出し、ポケモンの骨格想像模型やゲームに登場する「カセキ」の模型、アンモナイトやティラノサウルスなど私たちの世界で見つかった実際の化石標本を配置しました。展示のクライマックスにあたる、古生物学研究の過去～未来に関するコーナーでは、「現在進行形で古生物学研究が行われており、今後も続いていく」ということを示す一例として、道内から発見され、筆者らが今年1月に新種記載した異常巻きアンモナイト *Yezoceras elegans* を展示しました。このように、この展示会は、地道な博物館活動の蓄積の上で構成されているものなのです。

コロナ禍での開催にあたり、期間中は博物館の入



ぼうくんポケモン「ガチゴラス」の骨格想像模型

館自体を事前予約制としました。これにより、館内が極度な密状態になることはなく、入館のための長時間の待機列や入室制限等も生じませんでした。それでも、例年よりも多くの方々にご来館いただきました。期間中の来館者は2万2000人以上で、過去20年間の特別展の中で最大の入館者数となりました。

アンケート結果によると、今回の特別展をきっかけとして当館にはじめて来られた方が多く、特別展だけでなく、常設展示も時間をかけてじっくりと見学するお客様が多く見受けられたのが印象的でした。「北海道からこんなにたくさんの種類のアンモナイトが発見されているとは知らなかった」とおっしゃった方もいました。ポケモンを入口に、これまでより幅広い層に古生物の魅力を届けることができたのではないかと思います。

この後、展示会は日本各地を巡回します。

(三笠市立博物館 主任研究員 相場大佑)

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

総会及び研修会を開催しました

令和3年6月30日（水）、福島町福祉センターにて道南ブロック博物館施設等連絡協議会総会及び研修会を開催しました。

総会では役員改正を行い、会長に旧檜山爾志郡役所（江差町郷土資料館）の安田克臣館長が選出され、事務局は引き続き旧檜山爾志郡役所（江差町郷土資料館）が担当することとなりました。

午後から行われた研修会では、「各施設の資料台帳情報の共有」をテーマに、7つの博物館施設等が各館の事例を紹介しました。手書きの資料カードから台帳管理システムを用いたデジタルの台帳まで多様な台帳が登場し、情報共有と意見交換が行われました。特に、台帳管理システムを実際に運用している施設からは、それぞれのシステムの利点や、予算との関係のほか、現場で困っているこ



研修会の様子

とや不明な点などが話題になっていました。また、台帳の検索機能を最大限活用するため、キーワードやメモ欄を充実させるなど、データ入力の手

も紹介されました。一方、紙媒体の台帳をもとに Excel などの台帳を新規作成する場合でも、台帳管理システムの入力方法を参考にすることで、将来台帳管理システムへ移行を行うことになった時には移行作業を円滑に進める手助けになります。これから本格的な台帳整備が必要な施設にとっても、他施設の担当者の意見を聴く貴重な機会となりました。この他、資料受入の基準や、受入後の台帳作成から収蔵に至るまでの流れ、台帳と写真の紐

づけ方法等、幅広い内容で情報共有が行われました。

博物館施設の資料台帳は、資料の保管管理、調査研究、普及活動など博物館のあらゆる業務の基本となるものです。それぞれの施設に合った資料台帳作成について改めて見直し、日々の業務につながる実りある研修会となりました。

(福島町教育委員会 学芸員 鈴木志穂)

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

令和3年度総会 書面会議終わる ～新しい体制でスタートをきる

例年、春に総会を行っていますが、昨年に続いて新型コロナウイルスの影響のため、今年度も書面会議で開催し、6月18日をもって決議されました。日胆地区の博物館職員も、近年はベテランの方々が定年を迎えており、少しずつ新しいメンバーへと移り変わっています。

新役員体制は次の通りとなります。

【役員体制】

- 会 長：武田正哉（苫小牧市美術博物館）
- 副会長：武永真（仙台藩白老元陣屋資料館）
 - ”：伊藤昭和（浦河町立郷土博物館）
- 理 事：渡邊つづり（豊浦町教育委員会）
 - ：角田隆志（洞爺湖町教育委員会）
 - ：石澤高幸（だて歴史文化ミュージアム）
 - ：藪中剛司（国立アイヌ民族博物館）
 - ：長田佳宏（平取町立二風谷アイヌ文化博物館）
 - ：東豊士（日高山脈博物館）
 - ：斉藤大朋（新ひだか町博物館）
 - ：高木大稔（えりも町郷土資料館）
- 監 事：乾哲也（厚真町教育委員会）
 - ”：加藤聡美（様似町アポイ岳保全係）
- 事務局長：新川剛生（新冠町郷土資料館）



白老町での北海道博物館大会「研究大会」では、武田会長がコーディネーターを務める

事業面では、新型コロナウイルスの心配があるものの、現段階では次の活動を計画しています。

【主な事業内容】

- 学芸職員等の研修会～苫小牧市にて
 - 日胆博物館 MAP の発行
 - 役員会の開催～苫小牧市にて
- 上記の他、7月15～16日にかけて、第59回北海道博物館大会が白老町で開催されたことから、当協議会も共催者として、参加者受入や会場準備、道博協総会の議事進行、駐車場案内、研究大会のコーディネートに至るまで、精力的に運営に携わりました。

(新冠町郷土資料館 学芸員 新川剛生)

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

道北巡回展 「探してみよう！地域のお宝」を開催中

今年度、7月24日から士別市立博物館を皮切りに名寄市北国博物館、美深町文化会館 COM100、美瑛町郷土学館の4会場で12月30日までを会期に道北巡回展が開催中です。

この展示企画の総合プロデュースは北海道博物館・青柳かつら学芸員が核となり、山下俊介氏（北海道大学・映像資料学）、黄京性氏（名寄市立大学・高齢者福祉学）をメンバーとする「博物館を拠点とする地域資源活用研究会（みゆぜけん）」の皆様が絶大な協力をお願いしています。



巡回展のキーワードは「冬山造材」「めん羊の利用」「馬を使った米づくり」で、これらの地域資源、すなわち「地域のお宝」に目を向け、地域の魅力再発見のため、地域の歴史や文化を学んでもらうことを趣旨に企画されました。

道北地方の内陸部に位置する士別市及び名寄市は明治30年代の初め頃に開拓の鋤が下され120年程が経過しています。同じ気候風土の中、母なる川・天塩川の恵みを受けながら、先人の苦勞があり、今日の農林業などの発展を見てきました。

青柳学芸員は2009年から士別市朝日町、2018年から名寄市智恵文地区をモデル地に、地域の高齢者に集まってもらい、地域に残されていた、馬耕による米づくりなどの産業の映像・写真等を見て、思い出を語り合う学習会を開催しています。さらには高齢者の参画を得て、地元小学校への出前授業を行っています。これらから、地域資源を利用する知恵や技術の伝承、地域の個性や誇りを産み出す地域学習

に努めていただいています。

合わせて巡回展では、黄氏が地元高齢者と連携して実践中である、日進地区での認知症予防プログラムの紹介もあります。

これまでの実践研究活動の集大成が今回の巡回展であり、開催館が保有する実物資料を各会場でアレンジとして加えます。また関連企画として3会場で山下氏を講師に「比べる視点で 地域映像を愉しむサロン」を開催します。

地域博物館が拠点となり、知識の集積や人材交流の場となること、このことを現代社会が直面している人口減や高齢化社会、そして持続可能な社会の実現のため、博物館としての役割や機能を果たす一歩としていくことが、今回の巡回展の意義であると思います。

(名寄市北国博物館 館長 吉田清人)

オホーツク管内博物館連絡協議会 NEWS

オホーツク博物館連絡協議会・宗谷管内学芸職員連絡協議会 連携事業 ～樺太パネル展開催～

令和3年7月1日から8月20日まで「樺太 絵ハガキに見る樺太の記憶～知られざる北の国境～」をオホーツク管内博物館連絡協議会・宗谷管内学芸職員連絡協議会の連携協力事業として湧別町で開催しました。

オホーツク文化等で関わりが深いことから連携事業を実施することとなり、今回初めての試みとして宗谷管内5館で実施した、平成19年巡回展「樺太」をオホーツク管内3館で開催することとしました。本年2月には紋別市立博物館、来年1月には斜里知床博物館を予定しています。当町では、鉄道、自然、工業、都市などテーマ別に解説パネル18枚と絵ハガキ約150枚を展示しました。

「樺太」はよいテーマでした。終戦時には40万人が住んでいたと言われており、来場者から「樺太に先々代がいた」や引き上げという状況から「当時の写真などは持っていなかったのを見に来た」など、町民や近隣市町村の人々の関心は比較的高かったように思います。当町では樺太の資料はほとんどなかったため、広域連携ならではのものでした。もちろん、自館での準備が展示するだけという利点は言うまでもありません。

展示した絵ハガキはデータをA4に印刷したものです。元々印刷物であるために、複写物でもあまり違和感はなく、取り扱いにおいても心配がありません。絵ハガキは各館で各種収蔵しているものから、連携事業としては最適な素材の一つと言えるでしょうか。



樺太展のようす

今回の展示では、利用実績として博物館内が望ましかったのですが、多くの人にみてもらうことを考え健診等で往来の多い文化センターを選択、そして約2カ月間の展示としました。来館者の把握は消毒を行って記入する記帳簿だけが頼りですが、期間が長いゆえ来場者は微増していきました。

今、博物館ができることとして、オンライン上の発信など情報の提供活動を各館が取り組んでいることと思います。今回の事例から、館外のパネル展の可能性を垣間見ることができました。比較的人が多く往来する場所での長期展示も情報の発信の一つになったのではないのでしょうか。

パネル展は、その意義に懐疑的でしたが、自館でも企画を考えてもいいかなと思っています。もちろん内容が重要ですが。

(湧別町ふるさと館 JRY (ジェリー)

館長 中島一之)

道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

写真で地域の歴史を振り返る企画展を実施しました

道東地区の博物館施設の取り組みの事例として、8月6日～8月26日まで帯広百年記念館で開催した特別企画展「過ぎ去りし街角 荘田喜與志の見た帯広・十勝」を報告します。

本展示では、昭和20年代から平成初頭まで帯広・十勝の人々の生活風景を記録した写真家荘田喜與志さんの写真約360点を展示しました。荘田氏の写真は街中・農村の風景やそこで働く人々の様子を虚心坦懐に記録した点が特徴です。先述の通り長らく地域の様子を撮影したこともあり、帯広・十勝の「時代経験」を写真から窺い知ることが可能となっています。

展示は以下の通りの構成で行いました。「1. カメラとの出会い」、「2. 昭和30年代の街角」、「3. 地域社会の変貌」、「4. 地域を記録する—お出かける荘田さん—」、「5. ニュータウンと鉄道高架」。移動や運搬の手段が馬から自動車・トラクターに変わり、郊外に市街地が進展していく昭和30年代～40年代にかけての変化を論点の中心に据え、同時にそうした時代の移り変わりを記録に残そうとした荘田氏の姿勢についても一章を設けました。

関連事業として、8月7日に釧路市立博物館学芸員の戸田恭司氏を招き博物館講座「写真から見る



昭和35年ごろの帯広駅前通り（荘田氏撮影）

釧路のまちなみ」を開催しました。たくさんの釧路の写真をご紹介いただき、道東の都市を写真を通じて比較する機会となりました。

本来は9月12日までの会期でしたが北海道が緊急事態宣言の対象地域となり、展示は8月26日で終了しました。会場では、(密を避けつつ)写真を前に来場者が語り合う姿が見られていただけに残念でなりません。関連事業として富良野市博物館の澤田健学芸員を招き富良野の写真の活用事例をご紹介いただく予定でしたがこれも叶いませんでした。あらためて世情の難しさを感じます。

(帯広百年記念館 学芸員 大和田努)

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

コロナ禍における動画投稿サイト YouTube の活用について

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言は、水族館にとって大きな影響がありました。私たちの役目は生きものを通して「生(せい)」を感じていただくこと。それが緊急事態宣言発令による休館で、来館者に生きものたちをご覧いただくことができなくなってしまったのです。

そんな中、おたる水族館のSNSにはフォロワーの方から「動物たちは元気ですか?」「動物たちをもっと見たい!」という声をいただきました。そんな声を受け、世の中にはコロナ禍で気持ちが沈んだり、ストレスが溜まっている方もいらっしゃるのではないかと考え、「元気な生きものたちをご覧いただき、おたる水族館ファンの方たちに元気をお届けしたい!」という気持ちから、動画投稿サイト YouTube を使って動物たちの姿を発信することにしました。

配信方法はふたつで、ライブ配信による生きものの解説と、スタッフだからこそ撮影できた場面を投稿するものです。

ライブ配信では対象種を映しながらスタッフがその種についての解説を行いました。その中では

視聴者からの質問もライブチャットで受け付けて、スタッフがそれにお答えしました。これまで来館された方にはそれほど質問をいただく機会はなかったのですが、チャットだと気軽に質問ができるからか多くのご質問があり、今まで以上に生きものについてお伝えできたように感じます。

もうひとつのスタッフによる撮影は、普段来館者にはお見せできないバックヤードや生きものたちの一瞬の表情を撮影、配信することで普段の展示では伝えきれなかった部分をお伝え出来ました。どちらも視聴者からの反応は良く、コロナ禍における取り組みとしてはとても有効なものとなりましたが、やはり私たちとしては「生(なま)」の生きものたちの「鳴声」「息吹」「動き」などをご覧いただきこそ、「力強さ」や「生きもの能力」が伝わり、その結果「生(せい)」を感じることができのではないかと考えています。時代が変わり科学技術が進んでもこの点だけは決して変わることはないと考えています。これらの点からも早く新型コロナウイルスが収束し、多くの方が安心して生きものたちをご覧いただける世の中になるよう願ってやまないのです。

(おたる水族館 飼育部海獣飼育課 高橋徹)

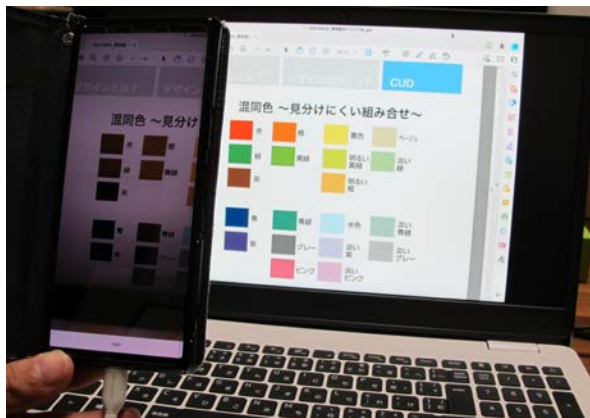
学芸職員部会 NEWS

学芸職員部会オンライン研修会を開催しました

令和3年9月30日(木)に学芸職員部会の研修会をオンラインに切り替えて開催しました。テーマは「伝わるデザイン～ユニバーサルデザインを意識した博物館展示」、参加者は51名でした。

最初に NPO 法人カラーユニバーサルデザイン (CUD) 機構の倉内雅弘氏から「ユニバーサルデザインを意識した印刷物の作成」を講義いただきました。なぜ色弱の人がいるのか、どのようなタイプの見え方をするのか基礎知識を解説いただき、ボタンの背景やグラフの色分けの事例を紹介いただきました。また広報印刷物を作成する際には、札幌市の「広報に関する色のガイドライン」がCUDについてまとめられていて参考になるとのことでした。

続いて同機構の北名由美子氏から「デザインのポイントとカラーユニバーサルデザイン」として講義いただきました。アートは感じてもらう自己表現であり、デザインは情報を伝える問題解決のため違う、というところから始まり、デザインの基本的な要素であるレイアウトと文字と配色のポイントを説明いただき、CUDとしてどうするのがよいか、「色のシミュレーター」という色弱の見え方をシミュレートできるスマホアプリを使って、誰もが見やすい配色とはなにか実例を見ました。



スマホアプリを使ってCUDの確認をする様子

ワークショップでは事前に5名からチラシ等を出してもらい講師から講評とアドバイスをいただくとともに、各自が手元に用意したチラシ等をアプリでチェックしました。

最後に、北海道博物館の田中祐未氏に「行事チラシのデザイン実例～「見やすさ」を向上させるための工夫について～」として事例報告をいただきました。チラシ等を作ってきた経験を基に、使いまわしできる見やすいテンプレート案や、文字に白フチをつけると見やすい、文字よりフロー図の方がわかりやすい等、ちょっとした技術や工夫を実例交えて紹介いただきました。

(八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館

学芸員 大谷茂之)

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

時代の変化と科学館

今年で40周年を迎える札幌市青少年科学館が開館したのは1981年。この年はスペースシャトルが初めて打ち上げられ、日本初のノーベル化学賞を福井謙一さんが受賞した年だ。そんな科学が明るい未来を描いていた時期に、東北以北最大の科学館として当館は作られた。

海外の科学館を視察し、様々な研究機関・企業の協力のもとに作られた札幌市青少年科学館は、まさに「科学の箱舟」だった。おしゃべりするロボット、世界で初めて作られた人工降雪装置など最先端の科学展示が導入され、館内で流す音楽は当時珍しかったシンセサイザーを用いて作られたオリジナル曲でレコードまで制作された。まだ見ぬ未来へのわくわく感、知らないことを知る喜び、好奇心を携えて多くの人々が詰めかけたという。わずかに開館一か月で来館者数10万人を達成し、科学教室を行えば、300人以上の応募が集まったほどだ。

それから40年。科学技術は目まぐるしく進歩してきた。

憧れだったコンピューターは日常的な道具の一つとなり、はるか遠いと思っていた宇宙でさえ、民間人が(お金さえあれば)行ける時代になった。百

科事典で苦勞して調べものをしてきたことが、今ではインターネットによってあふれるほどの情報に接することができるようになった。

しかし、科学が進歩するほど細分化し高度に複雑化していく中で、いつの間にか「科学は面白いものだ」から「科学は難しいものだ」にイメージが変わってしまったのではないだろうか。「子どもたちに科学原理を聞かれても困る」という大人たちも少なくないのではないか。

その一方で、変わらないことと言えば、子どもは好奇心の塊だということだろう。

初めて見るものに対する子どもの「何でだろう」「どうしてだろう」と湧きおこる興味は昔も今も変わらない。

自分たちの興味・関心から学びを広げていくために、科学の世界で遊ぶようにして学ぶ場所を提供するのが科学館だ。そのために、科学館では体験型を中心とした展示物構成、コミュニケーションを伴う実演や科学教室などの教育プログラムの提供を図ってきた。これらの事業はコロナ禍で中止や縮小となることが多い一方で、職員が工夫して新しいやり方で事業を生み出す館も増えてきている。

変化する時代の中で、もう一度出発点に戻り、子どもたちに対して科学館ができることを私たちは模索していきたい。

(札幌市青少年科学館 木野翠)

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

しりべしミュージアムロード共同展
20回記念「ザ・ベスト」展の開催

「しりべしミュージアムロード」—道道66号線岩内洞爺線（ニセコパノラマライン）沿いに立地する木田金次郎美術館（岩内町）と有島記念館（ニセコ町）とが、同道路によって結ばれていることと、前者が顕彰する画家・木田金次郎と後者の小説家・有島武郎とは、両者の人生や創作において強い結びつきがあったことから、1995年に連携を開始したものです。

その後、有島が木田をモデルにした小説「生れ出づる悩み」を主題とした展示やピカソの版画コレクションを所蔵する荒井記念美術館（岩内町）が加盟。さらに、国道276号線沿いに立地する西村計雄記念美術館（共和町）、国道5号線沿いの小川原脩記念美術館（倶知安町）が加盟し、「道道66号—国道276号—国道5号」というニセコ連山をとりまく環状道路上に個人記念館を中心とした加盟5館が立地する現在の形となりました。

この道道と国道の周遊性に着目して、夏休み期間にニセコエリアや積丹半島など日本海沿岸を訪問するお客様がミュージアム巡りをしていただけるような工夫を行っています。これが、2002年からほぼ毎年開催し、今年で20回目を迎えた「しりべしミュージアムロード共同展」です。

共同展では、各館共通の全体テーマを設定して（例えば「旅」や「海と山と田園と」など）、そのテーマに応じて各館が自館及び各加盟館から借用した所蔵作品を紹介します。

この共同展期間中は、お客様は1つのテーマの展覧会が5館に分かれて展示されているので、それらを周遊・観覧することができます。また、通常は自館の顕彰作家の作品のみ展示している館においても、他館の顕彰作家の作品も観覧できる場合があるので、通常とは異なるみどころがこの共同展にはあるのです。



このようなことを各館がどのように工夫をしているのか、木田金次郎美術館の20回展を例にあげて紹介します。今回の全体テーマは「ザ・ベスト」展ということで、過去19回のテーマの中から、各館が「ベスト」だと思ったテーマを選択しました。木田金次郎美術館では、2011年の第10回展のテーマ「旅へ出よう！」と取り上げて、各加盟館顕彰作家が各地を旅する中で描いた作品を紹介しています。この中では、自館所蔵の木田金次郎作品をはじめ、西村計雄記念美術館の西村作品、小川原脩記念美術館の小川原作品、有島記念館所蔵の木田金次郎作品ならびに藤倉英幸作品といった他館から借用した作品によって展覧会を構成しています。普段は自館の顕彰作家の紹介が中心となる個人記念館において、様々な作家を紹介することが館の活動の多様性を広げています。

この共同展に連動して、各館を巡るスタンプラリーも行い、各館や各作家、各地域のみどころも含めて楽しみながら周遊してもらえる工夫もしています。今後も各館の連携を深めながら、この事業を発展させていきたい。

（有島記念館 主任学芸員 伊藤大介）

イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 2021年10月～2022年3月

詳細は各館園にお問い合わせください

石狩

いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)

期間	タイトル
10/24	野外講座「石狩ビーチコーマーズ／秋の海辺の漂着物」
2022/1/5～3月末	テーマ展「資料館のお宝2022」
2022/1月下旬	連続講座「石狩大学博物館学」(2回)
	※いずれも新型コロナウイルス感染症の状況によっては中止になることがあります。

小原道城書道美術館 (011-552-2100)

期間	タイトル
8/10～11/30	企画展「近代日本画と旧皇室技芸員の人々展」
9/18	ギャラリートーク 講師：小原道城 演題：未定
10/9	ギャラリートーク 講師：宮田成生 演題：松林桂月について
11月	ギャラリートーク 講師：未定 演題：未定
12月～2022/3月	ギャラリートーク 各月1回実施予定
12/7～2022/3/31	企画展「西の鉄斎・東の晴湖展」(仮題)

北広島市エコミュージアムセンター知新の駅 (011-373-0188)

期間	タイトル
10/9～10/17	2021 旧島松駅通所ライトアップ(秋編)
10/16	バスツアー「地域遺産発見!発見の小径を歩く(西部地区編)」
10/17	講演会「東部地区サテライト決定記念講演会『東部こぼれ話』」
12/18～2022/2/27	企画展「蔵出し展～冬の生活道具展～」(仮)
2022/1/22～3/13	企画展「昆虫の翅(はね)展」(仮)

サケのふるさと千歳水族館 (0123-42-3001)

期間	タイトル
9/13～10/3	小島加奈子展「とーぼくばあさんー支笏湖の森の絵物語」

札幌オリンピックミュージアム (011-631-2000)

期間	タイトル
7/19～12/31	特別展「東京オリンピック・パラリンピック特別展示会」
10/16	大倉山・宮の森ジャンプ競技場往復ノルディックウォーキング

札幌芸術の森美術館 (011-591-0090)

期間	タイトル
10/9～2022/1/10	特別展「札幌美術展 佐藤武」
2022/1/22～3/13	特別展「きみのみかた みんなのみかた」

札幌市円山動物園 (011-621-1426)

期間	タイトル
2022/1/8～2/13	イベント「タンチョウ・レスキュー展」(パネル展)

北海道博物館 (011-898-0456)

期間	タイトル
10/2, 10/23, 11/13, 12/4, 12/25	ちゃれんが古文書クラブ(全12回)第8～12回
10/10	ミュージアムカレッジ「新聞に見る『スペイン・インフルエンザ』」
10/16～12/12	企画テーマ展「アイヌのくらしー時代・地域・さまざまな姿」
10/17	「アイヌのくらし」連続講座①「アイヌ文化を見る目」
10/24	「森のちゃれんが」50周年記念イベント「映画上映会 北海道開拓記念館ができたころ」
10/31	「アイヌのくらし」連続講座②「後志地方のアイヌ民族が生きた近代」
11/3	特別イベント「アイヌ音楽ライブ マレウレウコンサート」
11/6	子どもワークショップ「親子で探検! 森のコレクションをつくろう」
11/7	「アイヌのくらし」連続講座③「名工の誕生:アイヌ工芸品に込められたメッセージ」
11/14	「アイヌのくらし」連続講座④ 「知られざる千島アイヌの歴史ー考古学が解明する文字記録以前のすがたー」
11/27	ちゃれんがワークショップ「稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦!」
11/28	「アイヌのくらし」連続講座⑤ 「資料館をつくるーアイヌ民族によるアイヌ文化展示の歴史をたどるー」
12/11	子どもワークショップ「貝の化石で標本をつくろう!」

12/12	「アイヌのくらし」連続講座⑥ 「近世・近代の日本社会に流通した『アイヌ工芸品』」
12/19	ちゃれんがワークショップ「博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり」
2022/1/9	子どもワークショップ「アイヌ音楽 うたって・おどって・ならして」
2022/1/16, 2/6, 3/20	アイヌ語講座 文法の基礎①～④
2022/1/23	子どもワークショップ「博物館のなかで宝さがし」
2022/1/29, 2/5, 2/12, 2/19, 2/26, 3/5, 3/12, 3/19	はじめての古文書講座(全8回) 第1～8回
2022/1/30	特別イベント「博物館のウラ側を見てみよう」
2022/2/19～5/22	企画テーマ展「アンモナイトと生きる～50年の歩みとこれから～」
2022/2/20	ミュージアムカレッジ「ハレの日の装い」
2022/2/26	自然観察会「動物の足跡を探しに行こう！」
2022/3/6	子どもワークショップ「小さな野球盤づくり」
2022/3/13	ミュージアムカレッジ「史料に読む北海道と群馬県のつながり」

北海道立近代美術館 (011-644-6881)

期間	タイトル
11/17～2022/4/3	展覧会「コレクション・ストーリーズ『ヨーロッパの版画／オプ・アート／アール・ヌーヴォー、アール・デコのガラス』」他
11/17～2022/1/23	展覧会「富野由悠季の世界—ガンダム、イデオン、そして今」
2022/2/5～3/21	展覧会「羽生輝展」
2022/3/26～4/3	展覧会「山口南艸の書とわか葉会門流展」

北海道立文学館 (011-511-7655)

期間	タイトル
10/30～12/19	特別展「小説挿絵の魅力—文芸作品に伴走して」
2022/1/8～1/16	辻井京雲 書の世界～詩歌と戯れて～
2022/1/22～3/21	特別展「よみがえれ! とこしえの加藤清子」再び

渡島

函館市縄文文化交流センター (0138-25-2030)

期間	タイトル
10/16	自然観察会～秋の自然観察会～
11/6	縄文時代の石器をつくろう!
11/20	秋の縄文染め～自然の植物で布を染めよう～
2022/1/8, 1/9	冬休み限定縄文体験学習・鹿角アクセサリづくり
2022/3/12	令和3年度 遺跡調査報告会
2022/3/23～3/31	春休み限定縄文体験学習・縄文クイズラリー

北海道立函館美術館 (0138-56-6311)

期間	タイトル
10/9～12/5	常設展「没後20年金子鷗亭 近代詩文書の魅力」「新収蔵品展」
10/9～12/5	特別展「北の抒情と幻想 国松登展」
10/9	美術講演会「国松登—父として、画家として」
10/16	美術映画会『名画の秘密』シリーズ6「オランダの光と影」
10/17, 11/14	見どころ解説
10/31, 11/28	美術講座「国松登の生涯と画業について」
11/20	美術映画会『名画の秘密』シリーズ7「世紀末からのメッセージ」
12/25～2022/3/31	常設展「没後20年金子鷗亭 線とリズム」「美術のなかの文字」
12/25～2022/3/31	特別展「アートのみかた、カギはここにあり。美術をまるごと楽しもう！」

オホーツク

ところ遺跡の森 (0152-54-3393)

期間	タイトル
4/29～11月上旬	「遺跡の森スタンプラリー」
8/21～2022/3/21	コーナー展示「常呂の遺跡出土品展～遺跡と環境変動」
2022/3月(予定)	講座「ところ遺跡の森考古学講座」

博物館 網走監獄 (0152-45-2411)

期間	タイトル
8/1～10/31	企画展「網走刑務所と文学 その2」
11/14, 11/21	体験講座「紙すきをして和綴じの自由帳を作ろう」
12/5	体験講座「館内の植物でクリスマスリースを作ろう」
12/27	年中行事「正月準備(鏡餅・繭玉作り)」
2022/1/7	年中行事「七草粥と絵馬作り」
2022/1/11	年中行事「鏡開き(お汁粉の提供)」
2022/2/3	年中行事「節分(厄除けの豆の提供)」
2022/2/3	体験講座「鬼のお面の飾りつけ」
2022/2/27	体験講座「桜餅を作ろう」
2022/3/3	年中行事「ひな祭り(桜餅・甘酒の提供)」

美幌博物館 (0152-72-2160)

期間	タイトル
～10/6	ロビー展「すごい標本!すごい資料!!」
10/9	観察会「初心者からのコケ観察」
10/15, 10/16	プチ工房「ハロウィンのがま口ポーチ」
～10/24	特別展「びほろのアケボノ～旧石器時代の遺跡～」
10/30	観察会「樹木治療の現場を見てみよう」
11/3～11/23	企画展「交通安全ポスター作文展」
11/12, 11/13	プチ工房「ちりめん細工」
11/27	体験会「描いて、つくって アートに触れよう!」
12/4～2022/1/16	おひろめコレクション展
12/24, 12/25	プチ工房「しめ縄作り」
2022/1/7, 1/8	プチ工房「スノードームを作ろう」
2022/1/29	イベント「みどりの村雪の遊び広場記念行事」
2022/2/5	体験会「スノーシューで冬森を体験」
2022/2/12	体験会「アイヌ文化の植物利用 イケマのブレスレット作り」
2022/2/12～3/3	企画展「冬季作品展」
2022/2/13～3/3	ロビー展「ひなまつりとひな人形」
2022/2/18, 2/19	プチ工房「マーブリングでアート作品を作ろう」
2022/3/18, 3/19	プチ工房「きれいなチューブブレスレット」
2022/3/26	講演会「私たちのふるさと情報」
2022/3/27～10/24	特別展「美幌町4公園の草花図鑑」

北網圏北見文化センター (0157-23-6742)

期間	タイトル
12/18～2022/2/13	美術企画展「岸田劉生の軌跡展」

北海道立オホーツク流水科学センター (0158-23-5400)

期間	タイトル
10/2～10/17	シーニックバイウエイポスター展(仮称)
10/2	センター主催「ビーチコーミング」
11/10～12/9(予定)	第7回 木の香りこがし絵展

2022年1月(日時未定)	科学教室
2022年1月上旬～2月上旬	コムケ写真展～コムケ案内人が出会った自然風景～
2022年3月(日時未定)	春休みイベント
2022/3/6～3/21(予定)	紋別きりえクラブ作品展
2022/3/26～4/24(予定)	フォト紋別写真「オホーツク物語 2022」

北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)

期間	タイトル
10/9	はくぶつかんクラブ「まが玉づくり」
10/30～12/12	写真で振り返る日本のアラスカ調査
10/31	講座「日本調査隊のアラスカ考古学への寄与」
11/13	解説会「ロビー展解説会」
11/27	はくぶつかんクラブ「紙ストローでつくるヒンメリ」
11/28	講習会「ヒンメリづくり」
12/4	はくぶつかんクラブ「オホーツクの森ガーランド」
12/11	講習会「サミのひも織り」
2022/1/4～1/23	ロビー展「オホーツクシリーズ⑮ 北の状景から」
2022/1/4～1/23	ロビー展「道東の擦文文化」
2022/1/9	解説会「ロビー展解説会」
2022/1/15	講習会「初めての歩くスキーツアー」
2022/1/16	解説会「ロビー展解説会」
2022/1/22	はくぶつかんクラブ「かんじき体験」
2022/1/23	講座「土器から見た擦文文化の地域間交流と道東部の遺跡群」
2022/2/5～3/27	企画展「ウイルトのモノとコトバ：サハリン先住民のコスモロジー（言語が切りとる世界）」
2022/2/6	講座「ニヴフ語とその話し手たち」
2022/2/19	はくぶつかんクラブ「北方の言語であそぼう」
2022/3/6	講座「企画展解説講座」
2022/3/19	はくぶつかんクラブ「バスケットづくり」
2022/3/20	講座「北方民族の“威信財”をめぐって」

紋別市立博物館 (0158-23-4236)

期間	タイトル
10/2～10/31	特別展「アートとの対話 橘内美貴子『1/f ゆらぎと遊ぶテキスタイル』」
10/2	体験教室「アートとの対話関連イベント『お家でも出来る足踏み版画』」
11/20～12/12	特別展「北海道写真協会紋別支部写真展」
12/15～12/26	平野学陶芸作品展「ただ憧れを知る人だけが」
2022/1/16	体験教室「子ども考古学体験『勾玉作り体験』」
2022/1/22～2/13	企画展「博物館収蔵資料展」
2022/2/19～3/6	特別展「流水の歌展」
2022/3/12～3/27	特別展「第17回博物館サークル活動作品展」

胆振

国立アイヌ民族博物館 (0144-82-3914)

期間	タイトル
9/18～11/21	特別展「国立アイヌ民族博物館特別展／国立民族学博物館巡回展『ビーズ アイヌモシリから世界へ』」

10/3	講演会『ビーズ つなぐ・かざる・みせる』
10/16, 11/13	製作イベント『自分だけのタマサイをつくろう』
10/23	シンポジウム『2 万年続くビーズアイランド—旧石器から近世までの北海道のビーズ史』
10/24	講演会「みんなくビーズ研究最前線①『ビーズの魅力を探る その1:玉からみたアイヌモシリ』」
11/6	講演会「みんなくビーズ研究最前線②『ビーズの魅力を探る その1:玉と文明』」
2022/3/15～5/15	テーマ展示「地域からみた文化展 白老コタンの衣服文化」

仙台藩白老元陣屋資料館 (0144-85-2666)

期間	タイトル
11/3	たたら製鉄実演会
11/3～11/23	特別展「第10回刀剣展『堀井一門展』」
2022/2/11～3/3	企画展「麗しの雛人形展」
2022/3/12～3/31	企画展「ドローンで見るわが町展」

苫小牧市美術博物館 (0144-35-2550)

期間	タイトル
10/9～12/12	企画展「ラムサール条約登録30年 ウトナイ湖・うつりゆく自然とその未来」
10/9～12/12	収蔵品展「鳥のいる風景」
10/9～3/13	中庭展示「vol.17 澁谷俊彦『雪侍の庭・薄雪/Snow Pallet14』」
2022/1/15～3/13	企画展「NITTAN ART FILE4:土地の記憶」

室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)

期間	タイトル
11/23 (予定)	「とんてん館寺子屋教室『干支凧づくり』体験学習会
12/12 (予定)	「とんてん館寺子屋教室『しめ縄づくり』体験学習会

日高

アポイ岳ジオパークビジターセンター (0146-36-3601)

期間	タイトル
11月 (日時未定)	講演会「ヒメチャマダラセセリの現状と保護活動について」(仮)
2022年2月(日時未定)	講演会「エゾエンゴサクとマルハナバチの不思議な関係」(仮)

沙流川歴史館 (01457-2-4085)

期間	タイトル
10/1～11/27	特別展「びらとりの学校 うつりゆく学び舎」
10/23	特別展講座「学校教育の移り変わり人と人を育てる平取の風土」

新ひだか町博物館 (0146-42-0394)

期間	タイトル
9/18～2022/1/30	第7回特別展「移住した人々」
10/3	第7回特別展関連事業「淡路ゆかりの地を巡るバスツアー」

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 (01457-2-2829)

期間	タイトル
10/1～11/28	特別展「英国聖公会宣教師ジョン・バチラーの足あと—伝道活動とアイヌ文化研究—」
10/10	特別展関連講座「英国の資料から読み解くバチラーの足跡」
11/13	特別展関連講座「近代アイヌ教育史をつくった人たち—平取ゆかりの人々の足跡からたどる—」

後志

一般財団法人荒井記念美術館 (0135-63-1111)

期間	タイトル
9/8～11/14	展覧会「ピカソ版画常設展Ⅲ期『繰り返すテーマ』」
8/18～11/14	展覧会「西村計雄常設展Ⅱ期『西村計雄の色彩』」
11/15～2022/4 月中	冬季休館

岩内町郷土館 (0135-62-8020)

期間	タイトル
9/11～11/28	第3回企画展「岩内町郷土館開館50周年記念『岩内と樺太展』」
	※令和3年12月～令和4年3月末まで冬季休館

おたる水族館 (0134-33-1400)

期間	タイトル
3/20～11/23	特別展「北海道の宝」
9/11～9/26の土日	夜の水族館（夜間営業）

倶知安風土館 (0136-22-6631)

期間	タイトル
～2022/3/31	企画展示「海洋生物のホットスポットを支える川と森～海・川・森のつながりを知ろう～」
10/23	ワークショップ「作ろう！知ろう！ニセコ連峰②」
10/30	観察会「冬空舞うガを観察しよう」
11/3	ワークショップ「じゃがいもから片栗粉を作ろう」

西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)

期間	タイトル
10/1～2022/2/13	展覧会「一渡仏から70年ーパリからの手紙」
10/16～11/28	第13回公募展「しょうかいしたいな！わたしのだいすき」
10/23	～秋の夜長とパリ・ミュゼット～La Zone コンサート
10/31	開館22周年記念 無料開放
12/4	西村計雄命日 無料開放
2022/2/5～3/6	公募展「第18回 箱絵展」
2022/2/18～7/10	画業をたどる展覧会「西村計雄のスケッチブック」
2022/2/18～7/10	おやこで楽しむ展覧会「点と線のうちゅう展」

空知

美唄市郷土史料館 (0126-62-1110)

期間	タイトル
10/15～12/5	展覧会「アイヌウレシパ～幸せに暮らす人々」
10/2	二胡とピアノと歌コンサート
10/16	ギターコンサート
10/23	石炭を燃やしてみよう
10/17, 11/21, 12/19	なつかしの映画
11/6	オカリナコンサート
10/30, 11/27, 12/18	やさしい英語で外国の方に美唄の歴史を伝えよう！
12/11	キャンドルポットを作ろう！
2022/1/14～2/13	展覧会「子ども絵画展」
2022/1/15	郷土史料館で作ろう遊ぼう！凧作り
2022/1/16, 2/20, 3/20	なつかしの映画

2022/1/29, 2/26	やさしい英語で館内の展示物を紹介しよう!
2022/2/12	トールペイントでひな祭り

上川

旭川市博物館 (0166-69-2004)

期間	タイトル
11/3~12/12	第92回企画展「旭川市博物館収蔵品展 こけし~Kokeshi」(仮)
11/3	イベント「アイヌ文化に親しむ日」

士別市立博物館 (0165-22-3320)

期間	タイトル
7/29~11/3	特別企画展「開館40周年記念展」
9/4~11/3	特別企画展「岩石展」
9/18, 10/23, 11/27, 12/19, 2022/1/30	主催講座「古文書教室(全5回)」
11/20~2022/1/30	特別企画展「民衆生活と刃物」
12/4	主催講座「昔の手仕事」
2022/2/5~3/6	季節の行事展「桃の節句~ひな人形展」
2022/2/11, 2/23	主催講座「冬の自然観察会」

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-46-6277)

期間	タイトル
10/9~11/14	企画展「大学生作品展2021」(ステーションギャラリー)
11/20~2/20	企画展「チェアーズギャラリー展Ⅱ期」(ステーションギャラリー)
10/2~2022/1/10	企画展「平面コレクション展」(本館・仮)
2022/1/15 ~次年度(未定)	企画展「中原悌二郎賞関連展」(本館・仮)

名寄市北国博物館 (01654-3-2575)

期間	タイトル
10/1~11/9	企画展「名寄の戦争」(仮称)
10月	観察会「紅葉観察会」
11/12~12/7	企画展「風花 秋の作品展」
12/17~2022/2/15	企画展「台所と道具のいま・むかし」
12/17~2022/2/15	特別展「アイヌと植物」(仮称)
1月	観察会「スノーシューで歩こう」
2022/1/21~2/15	企画展「小さな自然観察クラブ活動報告展」
2022/2/18~3/15	企画展「雪の妖精シマエナガ+懐かしの建物絵画展」
2022/3/18~4/5	企画展「新着資料展」

美瑛町郷土学館 (0166-74-6116)

期間	タイトル
10/6~10/25	巡回展「アイヌ語地名と北海道」
12/4~12/30	巡回展「探してみよう!地域のお宝」
12/18	講座「比べる視点で 地域映像を愉しむサロン」
2022/1月~3月	企画展「森脇啓好写真展『大地讃頌2』」

富良野市博物館 (0167-42-2407)

期間	タイトル
11/3~	道北地区巡回展「アイヌ語地名と北海道」
10/9	自然観察会「富良野の自然に親しむ集い『変形菌ってなあに?』」

北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

期間	タイトル
9/18	山下清展 記念講演会「家族が語る山下清」
9/18～11/23	特別展「放浪の天才画家 山下清展」
9/18～11/23	常設展「木×彫刻 2つの彫刻賞の作家から」
9/24, 25, 26	解説「30分でわかる!学芸員の見どころ解説」
12/18～2022/3/13	特別展「神田一明、日勝展」
12/18～2022/3/13	常設展「北海道の美術 1950-70年代」

十勝

帯広百年記念館 (0155-24-5352)

期間	タイトル
10/2～10/24	アイヌ文化ロビー展
10/9	博物館講座「ぶらり帯広」
10/9	文化財一般公開「とてっぽ通りで機関車に乗れる!」
10/22～11/14	収蔵美術作品展「日本画の世界」
10/23	博物館講座「アイヌ資料を見る」
11/13	博物館講座「ものがたりの昆虫9」
11/25～12/26	ロビー展「マッチ箱展5」
12/11	体験教室「縄文のカタチを彫る!～消しゴムはんこ～」
12/18	博物館講座「大地が語る十勝の自然史」
2022/1/14～1/30	公募展「第40回 郷土美術展」
2022/1/15～2/6	ロビー展「動画で旅する十勝の歴史2」
2022/1/22	博物館講座「十勝川河口の遺跡群」
2022/2/12～3/6	ロビー展「ひな人形展」
2022/2/13～3/6	ロビー展「デッサン教室作品展」
2022/2/19	博物館講座「民俗学への誘い」
2022/3/12	博物館講座「学芸員のしごと 学芸活動報告会」

上士幌町ひがし大雪博物資料館 (ひがし大雪自然館) (01564-4-2323)

期間	タイトル
10/2	体験型行事「十勝三股の自然に触れる集い」
10/9	親子自然観察会「親子十勝石観察会」
10/17	自然観察会「地形と地質編」
11/3	体験型行事「自然館まつり」
11/21, 12/19, 2022/1/16, 2/20, 3/20	体験型行事「バックヤードツアー」
2022/2/6	自然観察会「動物の足跡編 in 糠平」
2022/2/13	自然観察会「動物の足跡編 in 十勝三股」
2022/2/20	自然観察会「ワシ・タカ編」

神田日勝記念美術館 (0156-66-1555)

期間	タイトル
9/15～11/23	神田日勝が描いた牛、馬、人物 Part2
10/12～10/19	第27回 馬の絵作品展
11/26～2022/4 上旬	絵画に描かれた十勝
11/26～2022/4 上旬	神田絵里子 風景画展
年4回	アート・キッズ・クラブ

忠類ナウマン象記念館 (01558-8-2201)

期間	タイトル
11月下旬	講座「ミニ発掘体験教室」
2022年1月予定	講座「アンモナイト化石レプリカ作成教室」
2022年3月予定	講座「ナウマンゾウ置物づくり教室」

北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)

期間	タイトル
10/9～12/19	特別展「開館30周年記念 帯広商工会議所100周年記念事業 水木しげる 魂の漫画展」
10/9～12/19	コレクションギャラリー「コレクション・セクション～立体～」
10/23	ミュージアム・ミステリー
11/1～11/7	芸術週間
11/6	開館30周年記念 美術講演会
11/13	キッズ・ツアー
11/20	キッズ・ミュージアム
12/4	特別展セミナー
2022/1/12～3/13	特別展「開館30周年記念 道東アートファイル2022+道東新世代」
2022/1/12～3/13	コレクションギャラリー「バルビジンの風景／十勝の風景」
2022/1/15	アーティスト・トーク
2022/1月末(予定)	おびひろ氷まつり協賛事業
2022/2/5	オビビ・キッズ・アートフェスタ
2022/2/12	ギャラリー・ツアー
2022/2/26	ギャラリー・ツアー
2022/3/5	ギャラリー・ミュージアム
2022/3/12	ギャラリー・ツアー

釧路

厚岸町海事記念館 (0153-52-4040)

期間	タイトル
11/6～12/12	巡回展「日本の宇宙科学の歴史」

釧路市こども遊学館 (0154-32-0122)

期間	タイトル
10/23～10/31	企画展「遊びんピック2021 ハロウィンWeek キミの推しモンを見つけよう！」
11/3	企画展「サイエンス屋台村」
11/27～12/25	企画展「ウインターイルミネーション」
12/18, 12/19	ワークショップ「クリスマススペシャル」
2022/1/9	企画展「ジオフェスティバル」
2022/2/19, 2/20	企画展「とり+かえっこ」
2022/3/25～4/5	企画展「春休みイベント」

釧路市立博物館 (0154-42-5809)

期間	タイトル
10/2	体験講座「こすって写す土器模様～カラー拓本体験～」
10/9～2022/1/11	企画展「釧路75周年」(仮)
10/17, 11/21	観察会「春採湖畔探鳥会」
10/24	講演会「関勝則氏講演会」
11/3	体験講座「黒曜石ナイフを使ってみよう」
12/18～2022/2/27	企画展「釧路のなつかし写真展」(仮)
2022/1/9	体験講座「まが玉をつくろう」
2022/1/15～2/27	パネル展「春採湖～人と自然が織りなす湖～」

2022/2/26	観察会「冬のいきもの観察会」
2022/3/5～4/10	巡回展「タンチョウイラスト展」
日程未定	講座「学芸員トーク」

弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館 (015-482-2948)

期間	タイトル
4/10～11/30	体験「アイヌ文様刺しゅう体験 (コースター)」

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

期間	タイトル
10/9～12/8	傘寿記念 日本画家 羽生輝展 悠久の岬を望む
11/6	ミュージアム・コンサート「ソプラノ 大道和世を聴く」
11/13	アートシネマ館「ロスト・イン・パリ」
11/14	道立芸術館&市立美術館 めぐる×つくる 2021 生誕 80 年・毛綱建築バスツアー
12/4	アートシネマ館「ポテチ」
12/24～2022/1/13	冬のキッズ・アトリエ
12/24～2022/3/31	コレクション展 水からはじまるアート
12/24～2022/3/31	小宮伸二 YURAGI/ゆらぎ
2022/1/22	アートシネマ館「神様の思し召し」
2022/2/26	アートシネマ館「黄金のアデーレ 名画の帰還」
2022/3/12, 19, 26	大人の寺子屋一びじゅつの時間— ※テーマ別の3講座

事務局からのお知らせ

■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金（会費）で運営されています。年会費は、団体会員 15,000 円、賛助会員 20,000 円、個人会員 3,000 円です。今年度分会費を未納の方は、以下の口座までお願いいたします（振込手数料はご負担くださいますようお願い致します）。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店（普）0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】

【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

■全国博物館大会（北海道大会）について

第 69 回全国博物館大会は、2021 年 11 月 17 日（水）と 11 月 18 日（木）に札幌市のかでる 2・7（北海道立道民活動センター）を会場として開催予定です。詳しくは公益財団法人日本博物館協会のウェブサイトをご覧ください。

■4 月から、岡田えみりさん（北海道大学大学院・博物館学研究室／博士前期課程 2 年）に臨時職員として事務局の仕事を担っていただいております。

■北海道博物館協会ホームページ <http://www.hkma.jp/>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp/>

道博協ニュース 第 129 号	北海道博物館協会事務局
発行日 2021 年 10 月 20 日	〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内
発行者 北海道博物館協会	電話：011-898-0456
	メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com